

# キャリアパス

入省すると、本省勤務に加え、以下のように多彩な省外のポストを2年程度のサイクルで経験することになります。

**1 地方勤務**

農林水産省は、行政対象の性格柄、地域に密着した政策運営が必要とされており、現場感覚を身につけるためにも、若い頃から地方勤務を多く経験することができます。

**県、市町村への出向(3・4年目)**

県の係員・主査、市町村の係員として出向し、地方行政の最前線で具体的な諸課題に取り組むことにより、地域の実情に即した政策運営に必要な経験をすることができます。現在、5名の 種事務官が出向しています。

**地域のリーダーとしてのキャリア(8年目～)**

都道府県の部長、次長、課長又は市の部長クラス、農林水産省の地方組織である地方農政局、森林管理局の幹部クラス等、地域における行政のリーダーとして幅広い分野で活躍しています。現在、都道府県の農林水産部長や農政課長などに、種事務官が39名出向しています。

**2 他省庁への出向(3年目～)**

農林水産省で培った行政手腕を他府省でも発揮し、霞ヶ関の一員として活躍すると同時に、他の行政分野に携わることにより、幅広い行政知識・手法を身につけ、府省の枠にとらわれない大局的な視点から施策を立案する能力を身につけることができます。現在、60名の 種事務官が、係員クラスから局長クラスまで様々なポストで活躍しています。

**3 海外勤務(10年目～)**

農林水産行政は、国際交渉、国際協力など国際関係業務のウェイトが高く、海外勤務の機会も多くあります。在外公館の参事官・書記官、OECD等の国際機関の職員の他、JETRO等の在外事務所員として、現在、23名の 種事務官が、世界各地で活躍しています。

**4 留学(4年目～)**

国際感覚を身に着けると同時に各分野の専門知識を習得するために、人事院長期在外研究員(2年間)など様々な海外留学制度があります。現在、11名の若手 種事務官が、アメリカ合衆国、イギリスで学んでいます。また、人事院国内研究員制度(2年間)などの国内留学制度もあり、現在、2名の若手 種事務官が政策研究大学院大学で学んでいます。

**5 研修**

**農村派遣研修(2年目)**

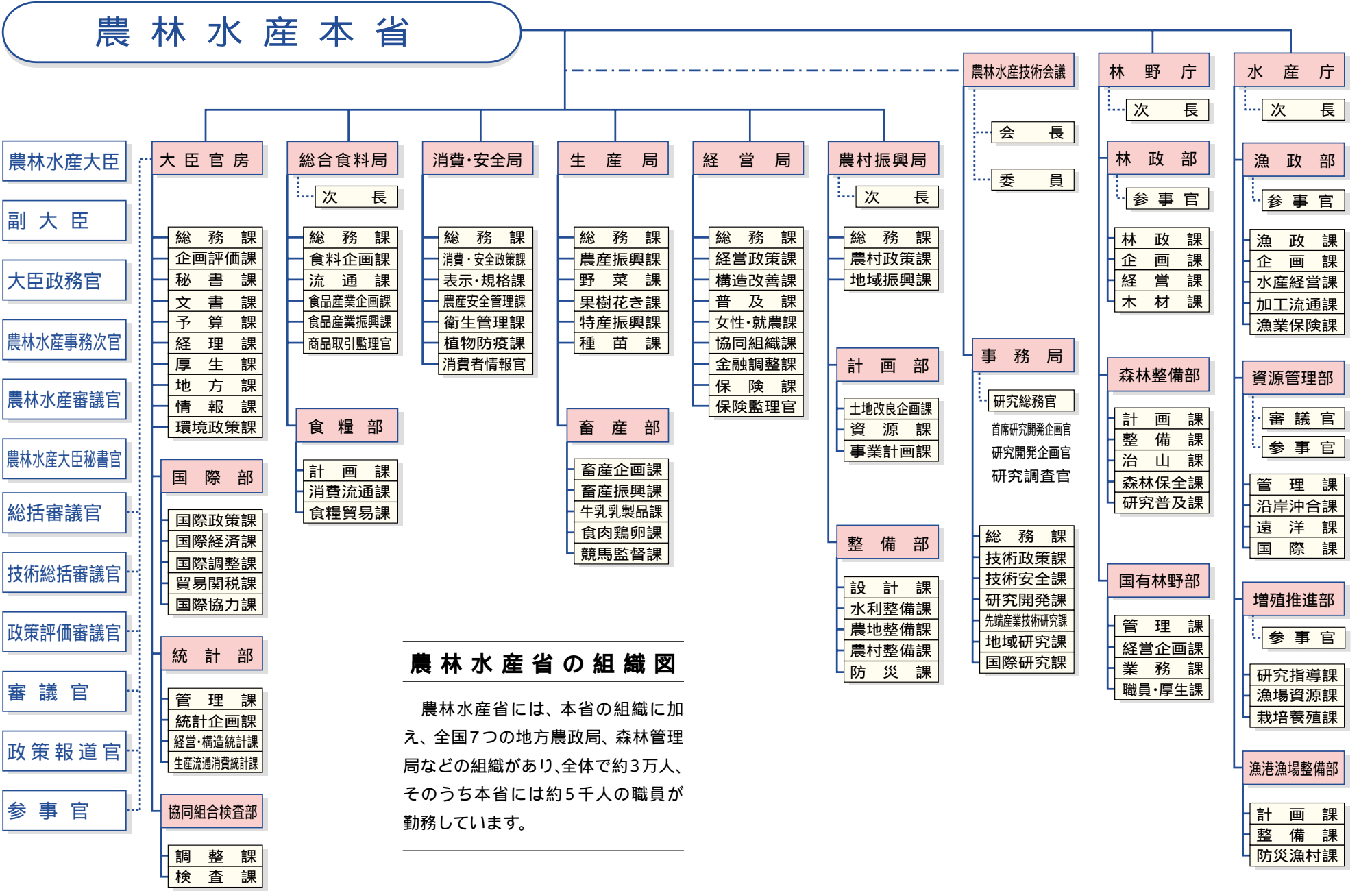
2年目の 種事務官は全員、1ヶ月間全国各地の農林漁家に派遣され、農林漁家に宿泊し農作業等を体験します。

**民間派遣研修(5年目～)**

係長以上の者が、民間企業(外食産業、量販店、シンクタンク)において研修し、消費者マインドやサービスマインドの醸成、民間企業の業務運営の手法等をOJT等により学ぶものです。

その他、初任者研修、係長研修、幹部研修、法令制度研修、国会業務研修、接遇研修、英語研修など様々な研修制度があります。

平成17年3月31日現在のデータ。昇進時期等はおおよその目安です。キャリアパスの具体例は、各職員のプロフィールをご覧ください。



## 農林水産省の組織図

農林水産省には、本省の組織に加え、全国7つの地方農政局、森林管理局などの組織があり、全体で約3万人、そのうち本省には約5千人の職員が勤務しています。